

バリアフリーおもちゃができました

要約

県産材を活用して、障がいのある・なしに関わらず、ともに遊べる木製玩具を開発しました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

高齢者、若齢者、障がい者、健常者の区別無く共に遊べ、QOL (Quality of Life : 生活の質) の維持に役立つ木製玩具の開発を目的とします。

現在、市場には視力障がい者向けと聴力障がい者向けに2種類の共遊玩具（障がいのあるなしにかかわらず、一緒に遊べる玩具）があります。

2. 内容

視覚に障がいのある人も遊べる玩具とするためには聴覚、触覚を用いたものである必要があります。形の認識をテーマにしたパズル、音と手触りをテーマとした楽器を試作しました（図1）。また、聴力障がい者向けとして、箸で駒をつまむバランスゲームなどを試作しました（図2）。「ホタテかすたねっと」と「ヒラメしゅーかー」が商品化されています。

3. 活用等

バリアフリーおもちゃは、高齢者と幼児など、世代間交流のコミュニケーションツールとしても活用できますので、県産材を使った新たな木製玩具の商品化が期待されます。



図1 視力障がい者向け



図2 聴力障がい者向け

関連情報

- ・精神リハビリ科のある病院でモニター調査を実施したところ、「図形の認知を促す効果あった」、「つまむ動作が向上した」などの回答が得られました。
- ・「ホタテかすたねっと」と「ヒラメしゅーかー」は弘前市の三上建具店でそれぞれ1,800円（平成26年11月現在）で販売中です。

弘前地域研究所 生活デザイン部(問屋町)

Tel. 017-739-8551

E-mail kou_hirosaki@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

